前期	小３ ３学期	こころの信号機	※学級活動など

１　目　標

○　怒りや強い衝動を感じたときに、すぐに手や足を出すのではなく「こころの信号機」を使えばよいことに気付き、落ち着いて行動することができるようにする。

２　指導のポイント

○　児童が気持ちをコントロールするスキルを身に付けられるように、ステップを踏んだ丁寧な指導を行うようにする。

○　学習で使用した「こころの信号機」ポスターを授業後に教室内に掲示し、「こころの信号機」を意識して行動できた児童への称賛を通して、児童の落ち着いた行動の意識化を図るようにする。

○　解決法には、おもに「先生や友達に相談する」「相手に理由を聞く」「忘れる・気にしない」の３つがあることを伝え、その中から最もよい方法を選択するように指導するようにする。

３　準備するもの

・「こころの信号機」プリント　・「こころの信号機」宿題プリント

・紙芝居①～⑦　・「こころの信号機」ポスター

４　事前・事後の活動計画

事　前	本　時	事　後
気持ちが落ち着かないときにどうしているかを考えさせる。	「こころの信号機」	落ち着いて行動できるように、「こころの信号機」ポスターを教室に掲示し、日常生活の中で振り返っていく。

５　本時の展開

	学　習　活　動	指 導 上 の 留 意 点
導入（つかむ）	１　紙芝居を見た後、突然怒りがわいてきた経験について考える。 ２　めあての確認をする。 **自分の気持ちをうまくコントロールする方法について考えよう。**	○　紙芝居の主人公であるタクヤくんが、気持ちのコントロールを上手くできなかったことに気付かせ、「どうすればよかったのか」という問いを基に、本時のめあてにつなげるようにする。
展開（さぐる・見つける）	３　衝動的な怒りの表出の危険性について考える。 ４　強い衝動を感じたときに落ち着いて行動するための「こころの信号機」モデルを知る。 **「こころの信号機」モデル** **①　赤：止まれ！** **・　落ち着くために深呼吸** **②　黄：よく考えよう** **・　怒りを感じた原因や問題を解決するための方法を探す** **・　解決法は１つではなくたくさん考える** **③　青：やってみよう** **・　考えた中で一番の方法を実行する** ５　「こころの信号機」モデルを使ってロールプレイをし、実行への意欲を高める。	○　紙芝居を基に、カッとなった後、手を出すことの危険性について考えさせるようにする。 ○　交通事故を防ぐために、信号機があることを振り返り、心にも信号機があることを教えるようにする。 ○　「こころの信号機」を使えば、衝動的に表出しそうになった怒りを上手くコントロールできることを理解させるようにする。 ○　児童が考える怒りに対する解決方法を否定せず柔軟に受け止めるようにする。 **〈怒りの解決方法〉** **○先生や友達に相談する。** **○相手に理由を聞いたり、注意したりする。** **○忘れる。気にしない。など** ○　怒りの解決方法をヒントにしながら、ロールプレイを行うようにする。 ○　怒りの解決方法を上手く再現できている児童を称賛し、怒りのコントロールへの実行への意欲を高めるようにする。
まとめ（決める）	６　学習の振り返りをする。 「こころの信号機」プリントに授業の感想を書き、気持ちのコントロールの目標を記入する。	○　児童の感想やこころの信号機プリントへの記載紹介を基に、怒りなど強い気持ちを感じたら、落ち着いて行動できるように日頃から取り組むことへの意識化を図るようにする。

参考文献　社会性と情動の学習（ＳＥＬ－８Ｓ）の進め方　小学校編　小泉令三／山田洋平（ミネルヴァ書房）（ユニットＤ３）

前期	小３ ２学期	じょうずだね	※学級活動など

１　目　標

○　たった一言で嬉しくなったり悲しくなったりすること確認し、相手がうれしくなるような声かけができるようにする。

２　指導のポイント

○　互いに認め合う体験は、児童にとって重要なことであるため、学習後も指導する機会を設けて定着を図るなど、丁寧に指導するようにする。

○　「入れて！」で学習する「仲間に声をかけるときのポイント」を使うことも大切であるため、児童の実態を考慮しながら、同時に指導することも効果的である。

３　準備するもの

・「じょうずだね」のプリント　・劇の台本　・言葉のカード６枚　・仲間に声をかける時のポイント
・状況設定カード（ロールプレイ用）４枚　・ペープサート①、②

４　事前・事後の活動計画

事　前	本　時	事　後
自分がほめられてうれしかった経験を交流する。	「じょうずだね」	「返事をする時のポイント」を教室に掲示したり、「ほめほめタイム」を設定したりして、日常生活で振り返っていく。

５　本時の展開

	学　習　活　動	指 導 上 の 留 意 点
導入（つかむ）	１　ほめられてうれしくなった言葉を発表する。 ２　めあての確認をする。 言葉の力について考えよう。	○　教師の声かけで、どのような気持ちになったかを問い、言葉によってうれしくなることに気付かせ、本時のめあてをつかむようにする。
展開（さぐる・見つける）	３　ペープサートの劇を通して、みつるくんが、うれしくなった言葉を考え、発表する。 ４　元気が出る言葉を考えて、「ほめ方のポイント」を知る。 ＊ほめ方のポイント 「ほめる人の名前　＋　ほめる理由　＋　ほめ言葉」 ５　ほめるときに活用する「仲間に声をかけるポイント」を知る。 ＊仲間に声をかけるときのポイント「“ハチ”の“あき”」 ①はっきり言う　②近（ちか）づく ③相手（あいて）を見る　④相手の気持（きも）ちにあわせる ６　ロールプレイをして、相手がうれしくなる声かけを練習する。	○　ペープサートの劇を通して、みつるくんが、うれしくなった言葉を「言葉のカード」の中から発表する場を設定する。 ○　言葉を入れて、劇をすることで、ほめられたり、認められたりするよさを感じることができるようにする。 ○　ほめ方のポイントをまとめ、より分かりやすくなるために、ほめ言葉と一緒に、ほめる理由を伝えるとよいことに気付かせる。 ○　ポイントを掲示し、覚えるようにする。 ○　教師は、ロールプレイごとに「状況設定カード」を提示し、説明する。
まとめ（決める）	７　学習の振り返りをする。 「じょうずだね」のプリントに、相手がうれしくなる声かけについて、自分が心がけることを書き、発表する。	○　帰りの会で「ほめほめタイム」を設定し、日常生活において、ほめる経験ができるように取り組んでいく。

参考文献　社会性と情動の学習（ＳＥＬ－８Ｓ）の進め方　小学校編　小泉令三／山田洋平（ミネルヴァ書房）（ユニット C3）

前期	小３ １学期	ようこそ転校生！	※学級活動など

１　目　標

○　転校生の不安な気持ちを理解し、転校生が「えがお」になる方法を考えることができるようにする。

２　指導のポイント

○　転校生の不安や問題点を考える場面で転校経験者がいない場合は、全く知らない場所へ１人で行くときの経験（スポーツ少年団に入るときなど）を想起させることで、転校生が経験する気持ちを想像させることができるようにする。

３　準備するもの

・「ようこそ転校生！」のプリント①、②

４　事前・事後の活動計画

事　前	本　時	事　後
これまでの転校生との関りを想起させる。	「ようこそ転校生！」	日々、明るく声をかけていくように、日常生活で振り返っていく。

５　本時の展開

	学　習　活　動	指 導 上 の 留 意 点
導入（つかむ）	１　転校したとき、どのような気持ちになるのかを考える。 ２　めあての確認をする。 **転校生が「えがお」になる方法を考えよう。**	○　転校経験者がいない場合は、全く知らない場所へ１人で行くときの経験（スポーツ少年団に入るときなど）を考えさせ、不安でいっぱいな気持ちであることに気付かせる。
展開（さぐる・見つける）	３　転校生が、困ることについて考え発表する。 例）・友達の名前が分からない ・場所が分からない ４　転校生が「えがお」になる方法を考える。 例）ケース１：「教科書一緒に見よう」と声かけ ケース２：「一緒に行こう」と誘う ケース３：「一緒に遊ぼう」と誘う ５　ロールプレイで声掛けの練習をする。 ケース１：教科書がなくて困っている ケース２：音楽室の場所が分からない ケース３：休み時間一人ぼっち	○　「ようこそ転校生」①のプリントを活用し、もし自分が転校生だったら、どのようなことに困るかを具体的に考えるようにする。 ○　「ようこそ転校生」②のプリントを活用し、もし自分が転校生だったら、困った時にどうしてもらったらうれしいのかを考えるようにする。 ○　「ようこそ転校生」②のプリントを基に、隣の人とペアになってロールプレイを行う。役割を交代して繰り返す。 ○　班の中で、うれしかった声かけについて話合い、よりよい声かけを知ることができるようにする。
まとめ（決める）	６　学習の振り返りをする。 「ようこそ転校生！」のプリントに、自分が実践しようと思う、転校生が笑顔になる方法を書き、発表する。	○　日常生活において、いつでも明るく声をかけることができるように、日頃から取り組んでいくよう意識付けをする。

参考文献　社会性と情動の学習（ＳＥＬ－８Ｓ）の進め方　小学校編　小泉令三／山田洋平（ミネルヴァ書房）（ユニット G3）

前期	小３ １学期	危険な場所	※学級活動など

１　目　標

○　校区の中で、交通事故や犯罪が起こりそうな危険な場所を知り、安全に生活する方法を考えることができるようにする。

２　指導のポイント

○　授業の前に児童が調査した内容を、教師自身が把握しておく。また、いくつか該当する場所の写真を撮ったり、「子ども１１０番の家」の場所を把握したりしておく。

○ 事後には、「安全マップ」を作成し、教室や校内に掲示し、継続して意識を高めておくようにする。

○　保護者に協力を得るために、事前に連絡し、事後「学級だより」などで保護者に成果報告をする。

３　準備するもの

・「きけんな場所調べ」プリント　　・学校周辺の地図（拡大したもの）　　・危険な場所の写真

・「子ども１１０番の家」の写真　　・シール（３色：赤、青、緑）

４　事前の活動計画

	学　習　活　動	指 導 上 の 留 意 点
事前指導	○　事前に、交通事故や犯罪の起こりやすい場所を調べる。 プリントの説明 **①　自分の通学路に線を引く。** **②　交通事故の危険性がある場所には赤色、犯罪の危険がある場所には青色、安全な場所には緑色。** **③　それぞれの場所を選んだ理由を書く。**	○　「安全マップ」を作成するために、調べ方を説明し、理解させる。

５　本時の展開

	学　習　活　動	指 導 上 の 留 意 点
導入（つかむ）	１　事前に調べた危険な場所がたくさんあることを知る。 ２　めあての確認をする。 **きけんな場所について考えよう。**	○　事前の学習で、児童が書いた各色の数を知らせ、校区に危険な場所がたくさんあることに気付くようにする。
展開（さぐる・見つける）	３　事前の調査をもとに、交通事故に遭いやすい場所を発表する。 ４　事前の調査をもとに、犯罪に巻き込まれそうな場所を発表する。 ５　安全に過ごすためにどうすればよいか考える。	○　全体で確認しやすいように、写真や地図で示し、発表された交通事故に遭いやすい場所に赤のシールを貼り、特徴を確認させる。 ○　犯罪に巻き込まれそうな場所に青のシールを貼り、特徴を確認させる。 ○　班で、安全に過ごすためにどうすればよいかを考え、たくさんのアイデアを習得できるようにする。
まとめ（決める）	６　「きけんな場所調べ」のプリントに、安全に過ごすために、自分が気を付けることを書いて発表する。	○　日常生活において、交通事故に遭いそうな場所や犯罪に巻き込まれそうな場所に近付かないように日頃から取り組んでいくように意識付けする。

６　事後の活動計画

	学　習　活　動	指 導 上 の 留 意 点
事後指導	○　安全に過ごすために、自分が決めた登下校の仕方などが実践できているか振り返る。	○　「安全マップ」を活用し、安全に気を付けて生活できているか確認を行う。

参考文献　社会性と情動の学習（ＳＥＬ－８Ｓ）の進め方　小学校編　小泉令三／山田洋平（ミネルヴァ書房）（ユニットF4）

前期	小３ ３学期	手伝ってほしい	※学級活動など

１　目　標

○　周囲の人に手伝ってほしいと依頼すると困ったことが解決できることに気付き、適切に手伝いを依頼することができるようにする。

２　指導のポイント

○　学校生活の中でも、誰かに何かを頼む場面は多いため、適宜指導を行い、「頼み方のポイント」が身に付くようにする。

○　すべての物事を周囲の人に頼むものではなく、自分でできること、お願いすることの区別を明確に理解させるようにする。

○　“忙しそうな人には頼まない”といった「相手の都合」については、発達段階を踏まえて触れないようにする。

３　準備するもの

・児童が困っている写真　・「手伝ってほしい」プリント　・頼む内容カード　・頼み方のポイント

４　事前・事後の活動計画

事　前	本　時	事　後
自分が困ったときの経験について話し合う。	「手伝ってほしい」	困ったときに、“はりを（お)”に気を付け、手伝っての依頼ができているか日常生活で振り返る。

５　本時の展開

	学　習　活　動	指 導 上 の 留 意 点
導入（つかむ）	１　児童が困っている写真を見て、どうすれば困ったことが解決できるかについて話し合う。	○　困ったときは、一人でも解決できるが、他の人に頼むとより解決できることに気付かせるようにする。
	〈児童が困っている写真の例〉 ・一人でオルガンが運べず困っている。　・一人でプリントを配れず困っている。	
	２　めあての確認をする。	
	こまったときの「手伝って」のたのみ方について考えよう。	
展開（さぐる・見つける）	３　「手伝って」の悪い頼み方とよい頼み方を比較し、「頼み方のポイント」を知る。	○　教師が、「手伝って」の悪い頼み方とよい頼み方を示し、「頼み方のポイント」について気付かせるようにする。
	＊頼み方のポイント「“ハリを（お)”頼む」 ①内容をはっきり伝える、②理由（りゆう）を伝える、③お礼を言う	
	４　頼めることと頼めないことを分類して、その特徴を考える。	○　掲示した「頼む内容カード」の分類を通して、頼んでよいことと自分の責任で行うべきことがあることに気付かせるようにする。
	５　「手伝ってほしい」プリントに自分の考えを書く。	○　頼み方のポイントに気を付けながら、「手伝ってほしい」プリントに自分の考えを書かせるようにする。
	６　ロールプレイを行い、「頼み方のポイント」を身に付ける。	○　「手伝ってほしい」プリントを基に、ペアでロールプレイを行い、上手くできているところを称賛し合うようにする。 ○　頼んでも相手に断られることもあることを理解させる。そういった場合、他の人に頼むなど他の方法を考えさせるようにする。
まとめ（決める）	６　学習の振り返りをする。 ・　「手伝ってほしい」プリントに授業の感想を書き、これから行いたい頼み方を記入する。	○　授業の感想を基に、日常生活において困ったことがあった場合、上手に頼んで手伝ってもらうことができるよう友達との関わりの意識化を図るようにする。

参考文献　社会性と情動の学習（ＳＥＬ－８Ｓ）の進め方　小学校編　小泉令三／山田洋平（ミネルヴァ書房）（ユニットＣ４）

前期	小３ ２学期	忘れ物	※学級活動など

１　目　標

○　忘れ物をする原因や忘れ物をしない方法を考え、意欲的に実践できるようにする。

２　指導のポイント

○　「忘れ物をする」という結果ではなく、「忘れ物をしないためにできること」という過程に着目して展開する。

○　事後指導の１週間チェックでは、「忘れ物をしたか」ではなく、「忘れ物をしない方法を実行できたか」を確認する。

○　忘れ物の原因の１つには、整理整頓をしていないことがあげられているが、整理整頓については「自分のもちもの」で学習するため、関連付けて学習してもよい。

３　準備するもの

・「わすれもの“ゼロ”作せん」プリント　・「『わすれもの“ゼロ”作せん』への協力のお願い」プリント

４　事前・事後の活動計画

事　前	本　時	事　後
今までに忘れ物をしてしまって困ったことを話し合う。	「忘れ物」	忘れ物をしない方法が実行できているかを、日常生活の中で振り返っていく。

５　本時の展開

	学　習　活　動	指 導 上 の 留 意 点
導入（つかむ）	１　一週間のクラスの忘れ物の状況について知る。 ２　めあての確認をする。 **わすれ物をしない方ほうを考えよう。**	○　一週間の忘れ物を表にまとめ、視覚的にとらえることができるようにする。
展開（さぐる・見つける）	３　忘れ物をする原因や解決方法を考える。 <げんいん>　○△×　<かいけつほう> １　聞いたことをわすれてしまう。　→ ２　メモなどに書いたことをかくにんしない。　→ ３　ひつようなものがどこにあるのか分からない。　→ ４　忘れ物ゼロ作戦を考え、発表する。 例）・連絡帳を見ながら、準備をする。 ・メモに書いて、よく見えるところに貼っておく。	○　忘れる原因を発表し、「聞いたことを忘れてしまう」「連絡帳を確認しない」「どこにあるのかわからない」であることを理解できるようにする。 ○　忘れ物をすると、自分が困ったり友達に迷惑をかけたりすることに気付くようにする。 ○　班で忘れ物をしないための「忘れ物ゼロ作戦」を考え、具体的な方法を発表する場を設定する。 ○　発表された「忘れ物ゼロ作戦」の中から、自分に合った方法を見付けさせる。
まとめ（決める）	５　学習の振り返りをする。 自分に合った忘れ物をしない方法を決定し、発表する。	○　実践への意欲を高め、１週間継続できるようにする。また、「『わすれもの“ゼロ”作せん』への協力のお願い」プリントを配布し、保護者にも見守ってもらうことを伝える。

参考文献　社会性と情動の学習（ＳＥＬ－８Ｓ）の進め方　小学校編　小泉令三／山田洋平（ミネルヴァ書房）（ユニットＡ７）